



なわしょうつうしん 暁小通信

学校だより

学校教育目標

「みんなで輝き合う 暁小」

～NAんどでも WAくわく

TEAMで～

令和8年度 第6号 令和8年9月2日発行 四條暁市立四條暁小学校

校長 香村 紀子



に がっき 二学期がスタートして1週間！

あつ まいにち
暑い毎日だけど、みんながんばってます！



がっ につ すい がっき しぎょうしき おお じ こ げんき なつやす す
8月26日(水)が、2学期の始業式でした。大きな事故などもなく元気に夏休みを過ごせ
たこと、とてもうれしく、ほっとしています。ひさ がっこう ひさ ひと あつ
久しぶりの学校、久しぶりにたくさんの人が集まった
たいいくかん
体育館でしたが、みんながしっかりお話をきいていた すがた
姿がとてもかっこよかったです。なん
かいい がっき よかん
2学期になる予感がします。

がっき つた なわしょう がっき
1学期にお伝えした暁小のみんなのごあいさつのよさを、2学期はもっともっとよいごあい
さつにしたいです。まずは、「おはよう」から。まだまだ朝でも暑くて、ちょっと眠たいけど、気持
ちのよい「おはよう」で がっこう じかん はじ
学校の時間が始まるとうれしいなあ。みんなで、すてきな「おはよう」
か
を交わしていきましょう。

そして、しぎょうしき はな がっき おおいそが ぎょうじ こうがいがくしゅう
始業式でもお話したように、2学期は大忙しです。行事だけでも、校外学習や
うんどうかい ねんせい しゅうがくりょこう なわ など よてい ぎょうじ さまざま
運動会、6年生は修学旅行、暁パー等たくさん予定されています。これらの行事や様々な
がくしゅう なか じぶん とく い きょうみ ちょうせん ちい
学習の中で、自分の得意なことや興味のあることにどんどん挑戦してください。そして、小
な「できた!」「がんばった!」を つ かさ おも せんせい きょうりよく お
積み重ねていきたいなあ、と思います。先生たちも協力は惜
しみません。そうだん とも ちから か
相談にものります。きっとお友だちも力を貸してくれます。まず、自分から行動を
はじ
始めてみてください。うまくいかないこともあるかもしれませんが、それも一つの積み重ねで
す。はじ
初めからうまくいくことなんて、ないんです。だから、チャレンジ!

がっき
2学期をみんなにとってよかったな、たのしかったなと振り返ることのできる時間にしたい
ねが
と願っています。がんばろうね!



夏休みが終わりました。子どもたちにとって少しはゆっくりできた時間だったと思います。

始業式の子どもちは、夏休みの終わりが残念そうでもありました。ただ、この夏休みに大きな事故等のお話もなく、胸をなでおろしています。お盆前後は関東から西に進む台風が涼しさ



を連れてきてくれたのですが、2学期が始まるというところにまたこの猛暑です。登校する朝でも気温は30度を超えています。学校では暑さ指数を計りながら活動の仕方を判断していますが、業間休みに運動場で遊べない日もあります。とにかく熱中症に気をつけながら生活していくことが大切です。

先日、あるニュースで帽子の色によって内部の温度に違いがある、という話題があがっていました。武蔵野美術大学の北教授の実験結果からのお話でした。まず「帽子を着用することが大切です。黒帽でも深部体温の上昇が抑えられた実験結果があり、黒や赤などの色の濃い帽子でも「かぶらないよりはよい」そうです。その上で「綿ポリ製」「淡い色（薄い色）」「通気性の高い形状」が推奨される、とのこと。登下校時、黄帽を着用することが熱中症から体を守るためにも有効だということがわかります。朝の登校時は帽子をかぶっていない子や手に持っている子も少なくありません。交通安全上、黄色い帽子をかぶって通行する人に認識してもらい事故などを避けるという意味に加え、熱中症から体を守るという意味でも、黄帽の着用について子どもたちにお声掛けをお願いします。なお、今年度からこれまでのキャップ型・メトロ型に加えて、3つめの形の帽子を標準服取扱店で取り扱い始めています。帽子の後ろには首の日よけもついていたり、洗濯ができたりして暑さ対策の工夫がされているものですので、一度ご検討いただくといいかな、と思います。

しばらくこの残暑が続くと思われます。体調管理と熱中症対策をよろしくお願いします。

「地球温暖化」という言葉が当たり前に聞かれるようになって久しい気がします。出始めのころ、危機感はあるものの「で、どうすれば食い止められるのか?」という疑問に真剣に向き合うことができていなかった自分を振り返ります。最近はその影響が目に見えて様々な形で私たちの生活に及んできているように思います。地震は温暖化と関係ないとは思いますが、この夏の間に起こった自然災害は、日常の生活を一変させるほどの力を見せつけました。熊本地震。関東地方や北陸地方での豪雨。ネパールでの土砂災害。山林火災。こんなに災害が続くと、あの時、本気で地球温暖化を食い止めるようなことに取組んでおけばよかったのではないかと、自身に問うてみたりします。一人では太刀打ちできませんが、子どもたちの世代が生きる世界のためにまずは自分の意識を変えることからなのではないかな、と思うこの頃です。同時に、いつ私たちの周りで災害が起こるかもわからず、いざという時のために、何から準備しておくか家族やまわりの人と相談し行動することが大切です。ぜひ保護者のみなさまにお願いしたいのは、保護者の方と別々で学校以外の場所にいる時に、子どもたちが災害にあったらどうするか、を決めておくことです。保護者と離れ離れになれば、子どもたちは不安を募らせます。私は、子どもが学校に通っている年代の時に、「自分の通っている学校かおうちに、迎えに行くまで待っていること。必ず迎えに行くから。」と約束していました。起こっては欲しくない災害ですが、起きたときになにか決まりごとがあると、それを頼りに行動できるのではないかと思います。

9月1日は防災の日でした。おうちで一度お話のテーマにしてみてください。

